



もう一つは、大学生のマイプロジェクト支援である。地域における活動を授業内で完結させるだけでなく、授業外でも継続させたい、発展させたいという大学生は少なくない。そこで、2年前から藤枝市で展開している内閣府学生対流促進事業の流れを受け、大正大学3年生のプロジェクト支援を今年度実施した。学生Aを現地法人「一般社団法人ミライヌ」のディレクター（学生インターン）として迎え、「地域愛発見サイト ジブンドコ。」のプロトタイプ版 (<https://www.jibundoko.com>) を共同開発し、現在試験運用を進めている。「写真を見返して浮き上がる記憶が、まちと人のつながりを結びなおすのではないかとシビックプライド（まちへの誇り）の醸成につながるのではないかと」という学生Aの問いを探究するアクションリサーチとしての側面もあり、2021年2月には市民へのオンラインインタビューを通じたシビックプライド醸成の要因調査も行い、調査分析を踏まえサイトリニューアルを予定している。地域の受け入れ先から提供された課題に取り組む課題解決型の形式ではなく、参加側（学生A）の興味関心や実現したい目標を踏まえ、それを現実にするための社会資源のコーディネートをするマイプロジェクト型のプログラムとして、課題は多いものの、継続的にプログラム改良や大学生の受け入れを進めていきたい。

国が掲げるデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進により、テクノロジーの進化・発展はより加速し、地方においては地方創生政策と融合しながら展開がされていく。その際、論点となるのは、テクノロジーと市民生活の共生のあり方や、人間がテクノロジーをどう活用していくかであろう。地方だからこそできるテクノロジーと地方創生の両立、またその人材育成プログラムの開発を重点テーマとして、藤枝支局では今後も展開をしていきたい。

